

予算審査特別委員会 における各会派討論

◎会派清新

歳入では、市税が伸び悩む中、首都圏や関西圏などでの積極的なPR、魅力的な商品開発によりふるさと納税を推進し、一層の歳入確保に努められたい。歳出については、0歳から中学生までの医療費を完全無償化したことを評価するとともに、今後は対象を高校生まで拡大することを望む。市公式ホームページの更新について、欲しい情報へのアクセスが容易にできるようカテゴリーの整理や全体のスリム化を図るとともに、将来のIT技術革新に耐えられるような技術の導入、セキュリティ強化に努められたい。

病院事業会計について、新年度は既存診療の充実と患者本位の病院運営にさらなる努力をお願いする。コロナの感染状況等を勘案しながら患者家族の面会再開について前向きに検討するよう望む。

◎新政会

歳入では、国や道の動向を的確に捉え、交付税・補助金の確保に向け引き続き努力し、自主財源確保のため、ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の広報戦略等を拡充させ、寄付額の増加に尽力されたい。

民生委員・児童委員のなり手不足解消に向け、市担当者が各種団体等の会合等に出向き、制度説明等を行うなど人材確保に努められたい。本市と赤平市の境界付近を流れるポンクラ川に

ついて、防災上、大改修が必要であることから、赤平市と連携し、本河川を北海道が管理する河川に昇格するように要望を継続して行うことを望む。下水道設備の長寿命化も一部は限界を超えているので、設備更新を想定した資金の内部留保に努められたい。

◎会派みどり

歳入では、ふるさと納税の増額や企業版ふるさと納税も盛り込まれており、首都圏等でさらなるPR活動の強化に努められるとともに、市税の収納率向上を図りさらなる財源確保を求め。歳出では、新たな滝川市総合計画の策定により、今後の滝川市のまちづくりが進められる中、新文化センター建設に向け規模・場所が決定される年になると思われる。できる限り市民ニーズに合致した施設になることを望む。

介護保険特別会計では、アフターコロナにマッチした事業を実施し、市民に分かりやすい説明と確実な給付に留意されたい。国民健康保険特別会計では、国民健康保険特別会計では、国民健康保険の収納率向上に努め、特定検診を確実に実施することで、市民の健康増進を図られたい。また、健康診査など予防事業を確実にを行うため、対象者への広報活動を充実されたい。

◎公明党

コロナ禍も終息の兆しが見え、理事者・職員一同がアフターコ

ロナの時代に対応し、今後の推移を注視しながらの予算編成をされたことに敬意を表する。

全国的に人口減少・少子高齢化が予想されているが、中空知の中核都市である滝川市の政策により改善できると考える。企業誘致・少子化対策・高齢者福祉などに積極的な先行投資をするよう取り組まれたい。

新年度は、新滝川市総合計画に沿った様々な計画が立案され、コロナ後の再生に向け、重要な1年になることを肝に銘じており、これまで以上に議会が活発な議論の場となるよう決意を新たにしている。

市長のリーダーシップの下に、議員・職員が一致団結して、滝川市のため英知を集結し、取り組むことを望む。

◎日本共産党

病院事業会計では、経営改善は大きく進んだが、今後コロナ関連の補助金がなくなることで、これまでのようにはいかない。市民の健康を守る公的病院としての役割を果たすとともに、今後も経営改善に取り組んでいただきたい。介護保険特別会計は、単身や高齢者夫婦世帯、認知症の高齢者が増加し、日常生活上の多様な支援が求められるため、様々な要求に対応する生活支援、介護予防サービスのさらなる充実を求める。

国民健康保険税は、加入者ひとりにつき年間23,100円の均等割があり、子どもの多い世帯ほど重い負担となり、国は就学前児童の均等割減額に取り組んだが十分ではない。市は中学生までの医療費完全無償化に合わせ、中学生までの均等割免除に取り組んでいただきたい。

※「予算審査特別委員会」は10ページの「用語を理解して議会をもっと身近に！」を参照